

妹尾香織. "若者におけるボランティア活動とその経験効果." (2008): 35-42.

本稿は、ボランティア活動を通じて得る喜びや満足感などの心理的効果（援助成果）の規定因、その効果が活動に与える影響を、ボランティア活動経験がある若者（157名）を対象に調査し検討した論文である。

ボランティア活動は、他者のために自分のお金、血液、労力、時間などを寄付・提供する「寄付・奉仕活動群」に所属する。ボランティアへの参加動機や原因・理由は複雑であり、愛他心と共に個人的関心が存在することが先行研究によって明らかになっている。また、若者がボランティア活動を経験したことによる影響に関しては、高木・玉木(1996)にて、ボランティア活動が人間性、社会・地域、自然について活動以前とは異なる意識を持つようになったという認識変化や、忍耐力、責任感、共感性が高まったとする自己変革が報告されている。

本調査データを主因子法、バリマックス回転で因子分析を行い重回帰分析をした結果より、（1）若者はボランティア活動から、「自己報酬感」「愛他的精神の高揚」「人間関係の広がり」の3つの援助成果（ボランティア自身が発する喜びや満足感）を受けていること、また（2）ボランティア活動の援助効果や社会効果が援助成果を規定すること、さらに（3）援助成果がボランティア活動継続をどう築けることが明らかになった。